

平成28年度 入学試験問題

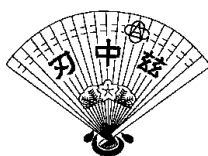
国 語

(50分・100点)

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

注意事項

- ① 監督の指示があるまで中を開けないこと。
- ② 解答は、全て「解答用紙」に記入すること。
※ 字数制限がある問題は、句読点・記号も字数に含む。
- ③ 質問（印刷不明のところ）がある、鉛筆などを落とした、トイレに行きたくなった、気持ちの悪くなった、などの場合は静かに手をあげること。
- ④ 携帯電話は、音が出ないように電源を切るかバッテリーをはずし、カバンにしまっておくこと。



名古屋経済大学市邨中学校

□ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

鳥はなぜ渡るのだろうか。

この根源的な問いに、これ以上なくクリアな回答を与えてくれたのは、ハイイロミズナギドリというミズナギドリの一種から記録された一年間の飛行の軌跡である。

ミズナギドリと言われて「ああ、あれね」とすぐに反応が返ってくるのは、バードウォッチャーの皆様を除けば漁師や船乗りのみならず、私がかつて住んでいた岩手県大槌町でも、夏の時期に船に乗って海に出ると、海面すれすれをヒューッと猛スピードで滑空していくオオミズナギドリの姿が見られた。「水を薙ぐように」飛ぶからミズナギドリ——ははあ、ネーミングだとカンシンしたものである。

ハイイロミズナギドリはニュージーランドの夏鳥である。(1) 夏の初めにどこからかニュージーランドにやってきて、卵を産んでヒナを育て、秋の初めにはまたどこかへ去っていく。ニュージーランドで見られない時期に、どこをどう飛び回っているのかは、それまでは断片的な目撃情報しかなかった。

(2) 二〇〇五年、カリフォルニア大学サンタクルーズ校のスコット・シェイファー(当時)らは、子育て中のハイイロミズナギドリに記録計を取り付けた。そうして子育てを終えて飛び去っていった鳥たちが、翌年またニュージーランドに戻るまでの、約七カ月間にわたる移動を追った。

結果はダイナミックの一言だった。この鳥は南北一万キロにもわたるコウダイな太平洋の上に、巨大な8の字を描いていた。つまりニュージーランド(8の字の左下)からまず、東に飛んで南米の沖(8の字の右下)。そこでしばらく過した後、太平洋を北西方向に飛んで、

日本近海(8の字の左上)にたどり着く。そのあと北東に飛んで、アリューシャン列島付近(8の字の右上)にしばらく滞在したのち、最後に太平洋を一万キロも南下して、はるばるニュージーランド(8の字の左下)に戻っていた。

総飛行距離六万五〇〇〇キロ。地球一周は四万キロなので、この鳥は七カ月の間に地球を一周半以上していた計算になる。

どうしてそこまでするのだろうか。

3 この巨大なスケールの移動の結果、ハイイロミズナギドリは五月から九月にかけては北半球の中へ高緯度海域(日本の太平洋沿岸やアリューシャン列島近くの海域)で過ごし、一〇月から四月にかけては南半球の中へ高緯度海域(ニュージーランドや南米の沖)でくらししている。

そう、一年中ずっと夏を過ごしている。

地球の北と南とにかかわらず、夏の中へ高緯度海域は豊饒である。太陽をさんさんと浴びておびただしい植物プランクトンが発生し、それをエサにするオキアミやカイアシ類などの動物プランクトンが増殖、さらにそれをエサにする魚たち——ミズナギドリの大好物である——が大量に呼び込まれる。ミズナギドリたちはほぼ一年にわたり、そうした夏の大フィーバーの真ん中にいる。

ミズナギドリは信じられないような長距離飛行によって、巡りゆく季節の流れをストップさせ、「終わらない夏」を享受している。

でもなぜ軌跡は8の字を描くのだろうか。

地球の北と南とにかかわらず、中緯度海域は偏西風という東向きの風が卓越しており、低緯度海域は貿易風という西向きの風が強く吹いている。ミズナギドリたちは、そうした自然の乗り物をうまく乗りこなすことによって地球規模の渡りを完遂している。

つまりこういうことである。北半球でも南半球でも、中々高緯度海域では鳥たちは東向きの風に乗って東へ飛べばいい。赤道を越えて北上する折には、西向きの風に乗って北西方向に流されればいいし、逆に赤道を越えて南下する折には、同じ西向きの風に乗って南西方向に流されればいい。軌道をつなぎ合わせれば、ほら、8の字ができた。

ミズナギドリは地球規模のエサの発生サイクルだけでなく、地球規模の風の動きまでも知悉し、利用している。スケール大きすぎるよ、ハイイロミズナギドリ。

(「ペンギンが教えてくれた物理のはなし」渡辺佑基)

※軌跡：通ったあと。 ※難ぐ：横にはらって切る。

※ダイナミック：力強く、生き生きとしているさま。 ※スケール：規模

※豊饒：栄養が豊かなこと。 ※増殖：増えること。

※享受：受け取って自分のものにする事。

※偏西風：地球の中緯度地帯の上空で、一年中西から東に吹いている風。

※卓越：他よりはるかに優れていること。

※貿易風：地球の低緯度地帯の上空で一年中東から西に吹いている風。

※完遂：完全にやりとげること。

※知悉：物事について知りつくすこと。

(一) 波線部アからオについて、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

(二) これ以上なくクリアな回答 とあるが、その「回答」にあたる内容として最も適当なものを次のアからオの中から選び、記号で答えなさい。

ア 鳥たちは、子育てのために「渡る」という行動をとる。

イ 鳥たちは、敵となる動物をさけるために「渡る」という行動をとる。

ウ 鳥たちは、豊富なエサを求めて「渡る」という行動をとる。

エ 鳥たちは、困難に強い子孫を残すため、「渡る」という行動をとる。

オ 鳥たちは、「飛びたい」という本能によって、「渡る」という行動をとる。

(三) にあてはまる最も適当な語を次のアからオの中から選び、記号で答えなさい。

ア 嫌味な イ はなやかな ウ 粋な エ 特殊な
オ 地味な

(四) (1) ・ (2) にあてはまる最も適当な語を次のアからオの中から選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ しかし ウ そこで エ まるで
オ たとえば

(五) それ の指す内容を書きなさい。

(六) この巨大なスケールの移動 とあるが、この移動の様子を、解答用紙の世界地図に図示しなさい。

(七) 「終わらない夏」 とあるが、それはミズナギドリにとって、何がどうなっていることを言っているのか。わかりやすく書きなさい。

(八) ミズナギドリなどのような点に、筆者は感動しているのか。わかりやすくまとめなさい。

□ 次の文章は、主人公の「ぼく」が、人生の最後に自分のこれまでの一生を振り返って書いた手記の一部です。文章を読み、あとの問いに答えなさい。

記憶は偉大で力のある魔術師だ。どう考えてもまったく意味がわからないような魔法をかける。ぼくの場合、幼いころの記憶がほぼ完全に消されていた。自分に幼いころがあつたという唯一の手がかりは、首からかけた幸運の鍵しかなかった。記憶という魔術師は、姉のキティに關して、ただおぼろげな幻しかぼくに残してくれなかった。しかも、年々その幻はうすれていくのだ。それに引きかえ、クーパーズ牧場の悪夢のような日々とブタ・ベーコンのことは、まるで昨日のできごとのようにはっきり覚えている。ぼくが何とか**正気**を保っていられるのは、悪夢の時代のあと、方舟でメグスおばさんとマーティとくらしした温かく希望に満ちた日々の記憶のほうだが、ずっとあざやかに思い起こせるからだ。

もしかしたら感情の強さと関係あるのかもしれない。たいていの人はおとなになるにつれて心に壁を作るが、子どものころはまだ防壁がないから、どんな感情も激しく深く感じる。だから、うれしかったことも、いやだったことも強く記憶に残っている。それでもまだ説明しきれないことがある。なぜ幼少時代の記憶がもやの中にかすんでいるのか。忘れてしまったことの数々は、覚えていることと同じくらいあるのだろう。子どものころは時間そのものがゆっくり進んでいたのに、シドニーでバスを降りたとたんに時間が加速したように感じる。

それからあとは、まるでガタガタゆれるジェットコースターに乗って過ぎてきたようだ。山あり谷ありで、あざやかな瞬間が断片的に記憶に残っているだけで、あとはもう何も覚えていない。

シドニーに着くと、フレディ・ドッズさんがバスまでむかえに来てくれていた。そして、車でニューカッスルの小型船造船所へつれていってくれた。ドッズさん……「フレディ」と呼ぶ人はメグスおばさんしかいなかった……ドッズさんは、ぼくが知っている中で一番無口な人だった。人ざらいとはちがう。それどころかよく笑うし、人づきあいが悪いわけでも、冷淡でもない。ただ、ぼくらとも、他の人ともめつたにしゃべることがなかった。実はとても親切で、自分の造船所をとりしきる、心の広い船長のようだった。船員どもをどなりつけるのではなく、自分でやって見せて**ミチビク**タイプの船長。それだから、自分が何をどうしなければいけないか、全員がのみこんでいた。ぼくらもそうだった。

ぼくら二人は雑役係として働き始めた。そうじ、使い走り、お茶くみ。ぼくらは、信じられないほど大量のお茶をいれたものだ。それから、夜警もした。それは、ぼくらの住まいについてきた役目のようなもので、**ヤチン**をはらうかわりに夜警の仕事をした。

マーティとぼくは、ドッズさんの造船所から少し川下に行ったヨットに住まわせてもらった。石を投げれば届く距離だ。一九四〇年代に造られた四十五フィート級のヨットで、住まいというよりはボロ船だった。**ゼンセイ**期を終え、すでに**シュウリ**のしようもないほどこわれかけていた。それでも、ぼくらはそんなことは気にしなかった。そこは、わが家だった。自分の居場所を持てたのがうれしかったし、ヨットの家はとても気に入った。

ヨットの名は「へいちゃら号」で、これほどびつたりの名前はない

し、これ以上ぼくらにぴったりの家はなかった。夜マーティと二人で甲板に腰かけていると川面を涼しい風がふき渡り、頭上には満天の星空。あれ以来ぼくは星が大好きだ。船室に降りれば、**ア**心地よく過ごせた。それこそ、「無上の幸せ」だった。しかも給料をもらえた。金額は多くなかったが、とても気分がよかった。急におとなになったような思いがした。だが、どんなにおとなになった思いがしても、メグスおばさんと方舟をはなれたことは、やはりさびしかった。どんなにバーナビーや、ビック・ブラック・ジャック、コワガリ、ヘンリーに会いたかったことか。ヘンリーには、よく笑わせてもらった。

造船所で働く男たちは、もちろんおとなあつかいなどしてくれなかった。みんなから見ればぼくらはほんの子どもで、ぼくは特に子どもっぽかったから、まるで**イ**あつかいだった。働き始めたころ、何人かぼくをいじめようとしたが、マーティはすでに身長が百八十センチ以上あり、そのマーティがいつもぼくの身边に気を配っているのは、だれの目にも明らかだった。それで、ぼくはときどきちよつとからかわれるぐらいですんだ。二人ともすぐに仕事場にとけこみ、仲間の一部になっていった。たぶんぼくはみんなのマスコットの存在だったのだろう。

（「希望の海へ」 マイケル・モーパーゴ作 佐藤見果夢訳）

(一) 波線部**ア**から**オ**について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

(二) ¹ それでもまだ説明しきれないことがある。なぜ幼少時代の記憶がもやの中にかすんでいるのか。とあるが、このような思いから、「ぼく」は記憶をどのようなものと考えていたのか。それがわかる

一文を問題文中から書きぬきなさい。

(三) ² まるでガタガタゆれるジェットコースターに乗って過ぎてきたようだ。というたとえが表現しているものは何か。適当なものを、次の**ア**から**エ**の中から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア シドニーまでの道が、でこぼこ道の山道で非常に乗り心地が悪かったことを表現している。

イ シドニーにやってくるまでの人生が、とても早く早く感じられていることを表現している。

ウ シドニーに来てから後の人生が浮き沈みの激しい人生だったということを表現している。

エ シドニーでの生活から今までの人生がとても早く早く感じられることを表現している。

(四) ³ 石を投げれば届くとはどのようなことを表現しているか。主語をはっきりさせて答えなさい。

(五) ⁴ それでも、ぼくらはそんなことは気にしなかった。とあるが、それはなぜか。その理由を述べなさい。

(六) **ア** にあてはまる最も適当な語を、次の**ア**から**エ**の中から選んで、記号で答えなさい。

ア だらだらと **イ** ぬくぬくと
エ せかせかと **ウ** がつがつと

(七) **イ** にあてはまる最も適当な語を、次のアからオの中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 虫 イ サル ウ アヒル エ ヒヨコ
オ だら猫ねこ

(八) 問題文は、人生を終えようとする「ぼく」の現在の気持ちを述べている部分と、過去のある時期の「ぼく」の様子を述べている部分とでできている。「ぼく」の現在の気持ちが述べられているのはどこからどこまでか。はじめとおわりの五文字を書きなさい。

☐ 次の問題に答えなさい。

(一) 次のアからウの文章を、()の中の指示にしたがって、書き改めなさい。

ア 選手たちは、小おどりして喜んでいる私に向かってさげんだ。
(語順を変えて、「小おどりして喜んでいる」のが「選手たち」になるように)

イ 美しい、かみの長い女の子の歌声が、校庭にひびき渡った。
(語順を変えて、「美しい」のが「歌声」になるように)

ウ たくさんの人々がこの番組を毎朝楽しみにしてきた。
(主語を「この番組は」に変えて)

(二) 次のア・イの文には、それぞれ余分なことばがある。そのことばをぬき出して、解答用紙に書きなさい。

ア コンサート会場におよそ三万ぐらいの人が集まった。

イ あんなことが起こるなんて、前もって予想できなかった。

(三) 次の()に入る最も適当な語をあとの語群から選んで、記号で答えなさい。

いつもと違い、こんなに歌がうまいとは彼も(①)。
外国人に日本語を教えるのは(②)。

- ア すみに置けない イ 骨が折れる ウ 目が回る
エ 一肌ぬぐはだ オ 手塩にかける

